

後悔喚起コミュニケーションが意思決定に及ぼす影響

○上市秀雄¹・関沢洋^{1,2} (非会員)

¹筑波大学システム情報系・²独立行政法人経済産業研究所

筑波大学
University of Tsukuba
ueichi@sk.tsukuba.ac.jp

背景

◆説得的コミュニケーション

相手の態度や行動を特定の方向に変化させる方法
個人的な意思決定においては、
感情喚起(不安・恐怖喚起等)の方法は説得に有効 (e.g., Rogers & Deckner, 1975)

- ◆ 個人的・社会的意思決定問題においては、“不安感”のみならず、“後悔(やらなければよかった、やっておけばよかった)”感情や“機会損失”も、重要な意思決定規定要因(e.g., 上市・梶原, 2000; 2006)
- ◆ よって、“後悔喚起”や“機会損失喚起”もまた説得効果が高いと予想される

しかし、社会的意思決定問題において
どの説得的コミュニケーションが最も効果的か不明

目的

- ◆ 社会的問題に対する意思決定として、日本政府がTPP交渉参加することに対する各個人の賛否態度を用いる
- ◆ 情報提示の際に、後悔喚起、不安・恐怖喚起、機会損失のうち、どの方法が最も“各個人のTPP正式参加に賛成”という方向へ認知や賛否意向を変えるかについて検証する

仮説：後悔を喚起させる情報を提示した方が、
他の感情喚起情報よりも、認知や意思決定を変化させる

方法

◆実験参加者

大学生に下記質問紙を、2013年6月第2週に1回目、第3週に2回目を実施
両方の質問紙に回答した参加者は、133名(男性105名、女性28名)

◆1回目質問項目(感情喚起情報提示前) (7段階評価 1:知らなかった~7:知っている)

TPPに関する基本情報の提示(一部)

“TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)は、元々はシンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイの4カ国が参加する自由貿易協定(FTA:物品の関税、その他通商上の障壁を取り除く自由貿易地域の結成を目的とした国際協定)でした。現在は、この交渉に、アメリカ、オーストラリア、ペルー、ベトナム、カナダ、マレーシア、メキシコも参加し、新しい協定の実現に向けて交渉しています。”
上記のTPP説明文を読ませた後、以下の質問項目を測定

○TPPに関する知識(5項目)

“日本の貿易自由化はTPPが発足する前からFTAやEPAで行われていた”など

○TPPに対する認知

不安感・リスク認知(5項目)、機会損失(5項目)、ベネフィット認知(5項目)、参加しておけばよかった後悔(5項目)、参加しなければよかった後悔(4項目)

○政府のTPP交渉参加に対する賛否意向(3項目、1:反対である~7:賛成である)

“日本政府がTPP交渉に参加すること(2013年7月に交渉参加がほぼ確定)”

“例外品目が認められなくても、TPPに正式参加すること”など

◆2回目質問項目(感情喚起情報提示後) (7段階評価 1:知らなかった~7:知っている)

○1週間後、1回目の実験参加者を、

後悔喚起情報提示群、機会損失喚起情報提示群、不安感・リスク喚起情報提示群、および統制条件群(感情を喚起する情報なし)の4条件にランダムに分けた。

○そしてそれぞれの参加者に対して、右記のTPP情報を提示して、1回目と同じ質問項目を用いて測定した

後悔喚起情報(一部)

もし日本がTPPに正式参加しなかった場合、日本は韓国や欧米諸国との競争で遅れをとるかもしれません。また、TPP参加国と比較して、日本の輸出を増やし、日本経済も成長させ、国民の所得を増やすことが難しくなったり、海外からの様々な商品、サービスなどを今まで通りの価格でしか購入することができなくなると思われます。

このようになってしまえば「あのときTPPに正式参加しておけばよかった」と後悔したとしても、すでに手遅れとなっていると思われます。たとえ後から日本がTPP正式参加を認められたとしても、参加国と日本との差はますます広がっており、その遅れを取り戻すことはできないからです。このようにTPPに正式参加しないと、様々なことに対して後悔する可能性があります。

機会損失喚起情報(一部)

もし日本がTPPに正式参加しなかった場合、世界経済をリードするチャンスを失ってしまうことになるかもしれません。また、TPP参加国と比較して、日本の輸出を増やし、日本経済も成長させ、国民の所得を増やすことや、海外からの様々な商品、サービスなどを安く購入するチャンスを失うことになるかもしれません。

このようにTPPに正式参加しないと、日本を発展させる様々なチャンスを失う可能性があります。

不安感・リスク喚起情報(一部)

もし日本がTPPに正式参加しなかった場合、世界の流れから完全に残されることになるかもしれません。また、TPP参加国と比較して、日本の輸出は増えず、日本の経済も成長せず、国民の所得が増えない恐れや、消費者は、海外からの様々な商品、サービスなどを高い金額を払って購入しなければならなくなるかもしれません。

このようにTPPに正式参加しないと、日本将来にとって様々な不安が生じるがあります。

統制群(全文)

日本の隣国である韓国は、既にアメリカやEU(欧州連合)とFTAを結ぶなど、積極的にFTAを推進しています。アメリカとEU(欧州連合)は、最近FTA交渉を開始しました。このように、世界的にFTA推進の動きがあります。またTPPでは海外へ輸出する製品の関税を撤廃するため、日本がTPPに正式参加しなかった場合、海外からの様々な商品・製品・農作物・燃料・サービスなどにかかる費用は、参加国と比較し、高くなるかもしれません

結果

Table 1 感情喚起情報の違いがTPP参加に対する賛否意向に及ぼす影響

項目	後悔喚起 (n=38)		機会損失喚起 (n=39)		不安・リスク喚起 (n=38)		統制群 (n=38)		有意差
	提示前	提示後	提示前	提示後	提示前	提示後	提示前	提示後	
日本政府がTPP交渉参加することへの賛否	4.91(1.44)	5.16(1.51)	4.68(1.63)	4.97(1.47)	4.91(1.38)	5.27(1.15)	4.91(1.44)	4.39(1.48)	交互作用
例外品目が認められたら正式参加することへの賛否	5.31(1.77)	5.78(1.12)	5.41(1.54)	5.35(1.52)	5.61(1.16)	5.88(1.14)	5.61(1.39)	5.27(1.28)	n. s.
例外品目が認められなくても正式参加することへの賛否	2.94(1.66)	3.78(1.54)	3.41(1.60)	3.74(1.42)	3.36(1.34)	3.73(1.28)	3.24(1.20)	3.45(1.48)	時間主効果

Table 2 TPP参加に対する認知要因の因子負荷量行列(原注:法, promax)

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
機会損失					
TPPに正式参加しない、世界経済をリードする機会を失う	.861	-.085	-.018	-.095	.021
ビジネスチャンスを失い海外企業との競争に負けてしまう	.762	.123	.029	.104	-.041
構造改革をする機会を失い、国内産業も低迷すると思う	.724	.074	-.027	-.085	.024
日本国内の経済が発展する機会を失う	.722	.004	-.038	.084	.054
現在の日本の景気低迷を脱する機会を失う	.628	-.073	.050	-.091	.432
TPPに参加しておけばよかった後悔					
日本はTPPに正式参加しなかったが、日本は全体として豊かになったとします。しかしTPPに正式参加していれば、さらに豊かになったと予想された場合、TPPに正式参加しておけばよかったと後悔すると思う	-.044	.887	-.032	.095	-.083
TPPに正式参加していれば、給与がさらに増えたと予想された場合、TPPに正式参加しておけばよかったと後悔すると思う	-.064	.768	-.134	.122	.040
TPPに正式参加しておいた方が、国内企業の業績がより改善していたと予想された場合、TPPに正式参加しておけばよかったと後悔する	.109	.718	.085	-.101	-.041
TPPに正式参加していれば、さらに安く輸入できたと思われた場合、TPPに正式参加しておけばよかったと後悔する	.040	.639	.025	-.017	.095
参加国ほどには豊かにならなかった場合、TPPに正式参加しておけばよかったと後悔する	.062	.632	.115	-.206	-.006
TPPに参加しなければよかった後悔					
TPPに正式参加したため、誰も海外の安い商品・製品やサービスを購入できるようになったとします。しかしそのため様々な商品、サービスの価格が下がり、デフレが加速してしまいました。TPPに正式参加しなければよかったと後悔する	-.148	.007	.777	.030	.142
TPPに正式参加したため、医療保険なども自由化され、現在より便利になったとします。しかしそのための国民皆保険制度が崩壊し、国民健康保険の圧迫や医療費差が広がってしまった場合、TPPに正式参加しなければよかったと後悔する	.156	-.031	.761	-.071	-.163
日本はTPPに正式参加したため消費者は海外からの安い農作物を買うことができるようになったとします。しかしそのため日本の農業がダメージを受けてしまった場合、TPPに正式参加しなければよかったと後悔する	-.025	-.028	.757	.036	.080
TPPに正式参加したため様々な規制緩和が進んだとします。しかしそのための国内厳しい検査基準ではなく、加盟国間の基準を適用することになり、食の安全性が脅かされてしまった場合、TPPに正式参加しなければよかったと後悔する	-.024	-.086	.681	.105	-.059
不安感・リスク認知					
TPPに参加すると海外の安価な商品が流入しデフレになる	-.097	.046	-.062	.769	.177
食品添加物などの規制緩和で、食の安全が脅かされる	.053	.136	.029	.695	-.036
海外からの安い農作物が流入し、農業がダメージを受ける	-.123	-.107	.044	.649	-.098
国内の中小企業がダメージを受ける	.335	.165	.000	.537	-.256
TPPに正式参加することに不安を感じる	-.058	-.077	.211	.512	-.044
ベネフィット認知					
グローバル化が加速されるので、GDPが増加する	.005	-.050	.033	-.114	.829
貿易の自由化が進み、日本製品の輸出が増加する	-.004	-.015	-.003	-.004	.680
日本がTPPに正式参加すると、今よりも平均所得が増える	.137	.021	-.047	.423	.424
貿易協定などが締結されるので、大手製造業企業などは業績が伸び、利益だけでなく、雇用も増える	.144	.139	-.005	.216	.415
因子相関行列					
因子2	.414				
因子3	-.192	-.063			
因子4	.019	-.191	.373		
因子5	.409	.387	-.276	-.171	

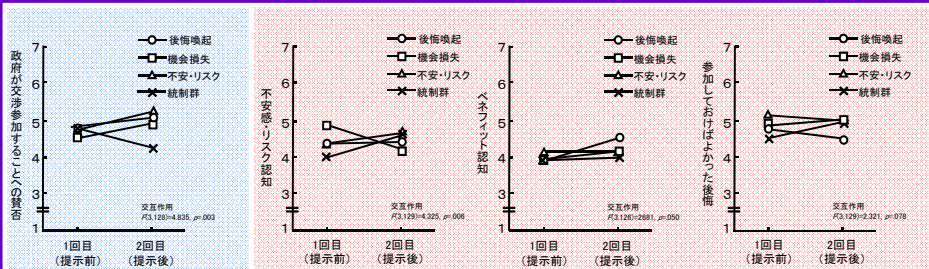


Figure 1 感情喚起情報
TPP参加意向に及ぼす影響

Figure 2 感情喚起が認知要因に及ぼす影響

まとめ

◆感情喚起情報がTPP参加意向に及ぼす影響

- 後悔、不安・リスク、機会損失などを喚起させることにより、情報提示者の意向する方向(TPP正式参加賛成)に、各個人の意向が変化

◆感情喚起情報と認知要因に及ぼす影響

- 後悔喚起 → ベネフィット認知が増加
- 後悔喚起 → TPP参加しておけばよかった後悔が減少傾向
- 機会損失喚起 → TPP参加に対する不安感・リスク認知が減少

後悔感情の喚起は、他の感情喚起よりも、
他者の認知や意思決定を、情報提供者側の意向する方向へ
変化させる可能性があることを示唆

参考文献

Rogers & Deckner (1975). Effects of fear appeals and physiological arousal upon emotion, attitudes, and cigarette smoking. JSPS, 32, 222-230.
上市・梶原(2000).後悔がリスク志向・回避行動における意思決定に及ぼす影響. 認知科学, 7(2), 139-151.
上市・梶原(2006).後悔ホルモンのリスク認知と回避行動. 認知科学, 13, 32-46.